

平成30年度「学ば力」育成プログラム

学校番号：27511
学校名：前田中央小学校

改定のポイント	〇子どもが意欲的に学び、友達と交流しあいながら自らの考えを深めることを通して学ば力を身につけていくこと	
プログラム項目名	項目内容	項目内容の具体
目標	「学ば力」の育成に係る目指す子ども像	自ら考え、「わくわく・ふむふむ・どんどん」の姿を表現する子
①「学ば力」に関する成果と課題	学ぶ意欲	成果 <u>ICTを活用した授業構築や課題設定の工夫をすることで</u> →わくわくする姿を引き出すことができた 「学校独自の学習生活アンケート」から <%・・肯定的な回答> 「授業中に発表することをがんばっている。」 73% 「友達と一緒に考えたり、話し合ったりすると楽しい。」 86%
		課題 「札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）」から <%・・否定的な回答> 「授業中に分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」 34% →共に学び合い・高め合おうとする意欲や効果的な交流の場の設定が不十分
	思考力・判断力・表現力等	成果 <u>「算数的表現力」を意識し、継続的に活用させることで</u> →ノートへの表現力については一定の成果が得られた 「札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）」から <%・・肯定的な回答> 「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある。」 80%
		課題 「札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）」から <%・・否定的な回答> 「意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。」 57% 「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。」 54% 「授業中、自分の意見を進んで発言している。」 59% →学年に応じたふり返りやノート指導の在り方についての指導
	基礎的・基本的な知識及び技能	成果 <u>少人数指導（にーごープロジェクト）やドリルタイムを活用することで</u> →数直線を活用をする子が増えるなど、学び方に伸びが見られた。 「札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）」から <%・・肯定的な回答> 「勉強で同じ間違いをくり返さないように気を付けている。」 81% 「標準学力検査（NRT）より」 国語に関しては、伸びの見える学年・項目が多くなっている。算数に関しては、「図形」において底上げが見られる。
		課題 「保護者アンケートより」 「家庭学習への取組」に物足りなさを感じている一方で、量の多さを感じている家庭もあるなど、各家庭に対してより一層の理解・協力が求められる。（学びのススメの活用） 「全国学力・学習状況調査より」 算数においてはA問題の「図形」以外、正答率が全国平均をやや下回っているか下回っている状況である。 「標準学力検査（NRT）より」 算数に関しては、「量と測定」領域が主に本校のウィークポイントになっている。 「札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）」から <%・・否定的な回答> 「新しく習ったことは、くり返し練習をしている。」 54% →基礎的・基本的な内容の習熟と家庭学習の取組の充実
②改善の重点	課題改善に向けて重点的に取り組むこと 学ぶ意欲 「わくわく・どんどん・ふむふむ」のある授業を目指し、授業力の向上を図る。（課題解決学習の充実） 思考力・判断力・表現力等 表現力の向上を重点に取り組み、場の設定を意識しながら授業構築をしていく。 基礎的・基本的な知識及び技能 家庭との連携を図る。学校教育活動を見直し効果的な運用を図る。	
③改善策	A「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実	※新年度研究（算数）のスタートに合わせ、2年間かけ再確認・継続・向上を図る。 ・既習を大切に授業の導入をしていくことで、本時の課題を明確にする。 ・子どもの「問い」を大切に授業展開をしていくために教師の授業力を高めていく。 ・ICTを効果的に活用した授業の構築をしていく。
	B「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実	・「前田中央スタンダード」の取組に『ノート指導』を位置付け、分かりやすくまとめることを習慣化していく。また、ノート掲示板を作成し、全校児童が目に見える環境を整える。 ・目標に迫るための交流を意図的に設定することで、「話す・聞く」機会を増やしていく。 ・毎時間の「振り返り」を大切に、学びの変容を感じられる授業の構築をしていく。
④検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用 ・子どものノートの「振り返り」を活用する。 ・学校独自の「学習・生活アンケート」や、札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）を活用していく。 ・全国学力学習状況調査の結果を活用する。 ・標準学力検査（NRT）の結果を活用する。（4月に2年生以上で実施）	